

商学部協定校留学報告書(パリ商業高等学校)

留学期間：2012 年 1 月～2012 年 12 月

商学部 4 年

☆留学の志望理由

私がフランスへ留学しようと思ったきっかけは、所属していたフランス文化を学ぶゼミで 2 年生の最後にフランス旅行に行ったことです。その旅行ではパリの主な観光地を巡るだけでなく、パリとレンヌの交換留学提携校を訪問したことで、留学というものを身近に感じられ、そこでの生活を想像することができたからです。また、私は幼い頃からファッションの世界に憧れがあり、それに加えて高校大学とビジネスについて学んできた私にとって、ファッションビジネスを学ぶこと、それを仕事にすることが夢でした。日本ではデザインや縫製は学べても、ファッションビジネスについて学べる学校はまだ少なく、特にラグジュアリービジネスについては学べる機会は希少です。パリでは、そのようなビジネスの研究が進んでおり、また、私の留学したパリ商業高等学校でラグジュアリーの授業が受けられるため、それらを学びたいと思い留学を決意しました。また、パリへ留学するさらなる利点の一つとしてファッションのイベントやミュージアムが多いこと、たくさんの芸術・文化に生で触れられることでした。

☆留学準備

留学前は就職活動が重なっており、準備は大変でした。また、留学先で単位交換はできますが、私の受けたかった授業は単位交換ができなかったことから、前期で卒業必要単位を取得しておかなければなりませんでした。手続きに加え、語学の勉強、留学費のためにアルバイトと、忙しい毎日でした。特にビザの手続きは余裕を持ってすることをお勧めします。私は運良く、すぐにパリでの滞在先を見つけることができましたが、これはとても大変で、普通何ヶ月もかかるものです。また、滞在場所が決まらなければビザがもらえません。また、夏はいろいろな人がビザを取得するために大使館に行くため、アポイントが取りにくいので出発の 2 ヶ月前くらいには予約を入れることをお勧めします。私は、アポイントはすぐにとれると思っていたため出発の 1 ヶ月前に大使館のホームページを訪れましたが、既に予約が埋まっていて、出発の 10 日前以降しか予約を取ることができず、トラブルもあり、実際にビザを取得したのは出発前日で、本当に予定通り出発できるのか不安でした。

☆現地での手続き

パリに到着後最初にしたことは銀行口座の開設で、使用できるようになるのに大体 2 週間かかるのと聞いていたので、できるだけ早めに行ったにも関わらず、私の場合は銀行の手違いで 1 ヶ月以上かかってしまいました。フランスは銀行カードをクレジットカードの代わりに使うのが一般的でほとんど現金を持ちません。また、銀行がなければ、携帯の契約もできず（プリペイドの場合は可）や、学生用の定期券を買えないのでこれにはとても困りました。フラン

スでは、何か問題があれば早めに直接店舗に行って交渉するのが一番です。電話で連絡した場合、社内での連絡が行き届いておらず何度も説明をしなければならないことがたくさんありました。

☆学校生活・課外活動

到着して2週間後から学校が始まり、最初の1週間は希望者だけのフランス語の授業のみでした。授業は会話形式で行われ、先生が質問することに対して一人一人が答えていくという形でした。日本でも入学してからずっとフランス語を選択していたので少しは理解できると思っていましたが、最初は全く聞き取ることも話すこともできませんでした。しかし、生活していく中で徐々に聞き取れるようになっていきました。

通常の授業が始まってからは、今まで英語で授業を受けるという経験をしたことがなかったこと、長時間英語を聞く環境に慣れていなかったことが重なって、慣れるまでにとっても苦労しました。留学前に英語の勉強をもう少ししておけばよかったと思いました。TOEICは受けていましたが、アウトプットをすることがなかなかできなかったのも、話す、書くという勉強をもっとしておけばよかったです。英語で文章を書くこと、プレゼンテーションするといったことを今まで経験したことがなかったのも、毎回とても大変でした。また、毎日のように宿題が出るので、それをこなしていくのも大変で、試験も、始めはどうなるか心配でしたが、課題や日々の勉強のおかげで、留学当初では考えられないくらい、回答できたので、うれしく思いました。

それから、日本について質問されることは多いです。それを伝えられるようにしておくことは日本を誤解されないようにするために必要かもしれません。

少人数制の授業が多く、学生は積極的に教授に質問していました。グループ活動なども多く、終止コミュニケーションをとれる環境でした。学生はやる気があり、勉強に対する姿勢は日本の大学の学生とは全く違いました。しかし勉強熱心な部分がある一方、パリという環境をうまく楽しんでいる人が多く、海外の学生は勉強と遊びの両立が上手だなと感心しました。私は他の国から来た留学生に比べると、語学力が乏しく、うまく話すことができなかったのですが、ファッションをいう共通の趣味を通してたくさんの友人ができ、その友人たちとファッションの話をしたり、ファッション関係のイベントに出かけたりするようになりました。その点で、多くの学生が自分たちの国の人たちで集まりがちですが、私はそれを避けることができました。

また、私はフランス人の友達を作るために違う学校に行ったり、日本語とフランス語の交流会に参加したりしました。というのもパリ商業高等学校は留学生が多いため、現地の学生と同じ授業を受けることがあまりできないからです。実際私は現地の学生と同じ授業を受けたことが一度もありませんでした。しかし、学校外でも日本語や日本文化を学ぶ学校に通っている人たちとの交流があったことで、フランス語を教えてもらったり、その人たちとパーティーをたくさんしたりする中で学校では習わない言葉やよりフランス人の生活に近い感覚を学ぶことができました。また、フランスは日本を好きな人が多く、パリには日本語を学んでいる人がたくさんいます。その点で、私は恵まれた環境で勉強することができました。

私は、留学先に英語圏ではなくフランスを選んだことも良かったと感じています。フランスに来て感じたことは、英語はしゃべれて当たり前でその次の言葉を話せるかどうかと自分の学問の専門を持っていることが、大切であるということを感じました。ヨーロッパの国の人たち

は3カ国語以上しゃべれる人たちが少なくないこと、それに加え自分の専門分野を持っていることを知り、自分が国際社会で活躍したいと願う際、こういう人たちと肩を並べていかなければいけないのだということを実感することができました。

☆留学に興味がある学生へのメッセージ

大学に入学した当初は自分が留学するとは思っていませんでしたが、留学を決めた後は、予想以上にいろいろなことをスムーズに進められたと思います。留学は資金のこと、時間のことなどたくさん躊躇してしまう事柄がありますが、その不安以上の経験が待っていることは確かです。私は留学を終えて、どうしてもっと早く来なかったのかと後悔したほどでした。様々な人種が混じり合うパリで多くの人と出会い、その人たちから様々な価値観を学ぶことは、自分の今までの人生を見直すきっかけとなり、これからの生き方を考えさせられました。このようなチャンスは学生のうちしかなかなか経験することが難しいと思うので、もっとたくさんの人に留学をしてほしいと心から思います。